

学生の漢文読解について

国語教育専修・太田亨

1、授業の概観

本授業の目的は、これまで中国文学の学習を終えた学生が、漢文の授業をどのようにすればよいか、その方法を理解することである。そのため作品研究と教授の要点を教授することが中心である。

学生は次年度より教壇に立つことになる。そこで、授業の題材で扱うのは、中・高等学校の漢文の授業で用いる教材とし、教材からその真意をいかに読みとり、他者へ伝えていくか、ジャンル毎に要点を押さえる。授業の形態は演習の形式を取った。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる三つの到達目標を課した。

- ① 日本人が学んできた中国文学作品の概要を理解する。
- ② 日中の工具書を使いこなし、丁寧に読み解くことができるようになる。作品の真意を他者に伝達できるようになる。
- ③ 中国の歴史・文学に興味を持つ。

取り上げる作品については、故事成語と唐詩と論語のジャンルから適宜選んだ。受講者にはまず担当作品を割り当て、各自その作品を読解してくるようにした。その資料を基に読解を深め、十分な作品分析を行った。読解の後に、同じ担当者が指導案を作製し、それをもとに話し合うようにした。

2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、9項目のアンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答者は5名である。②～⑥について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。

- ①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：5名 なかった：0名）
- ②、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：2名 まあまあ適切だった：3名 ふつう：0名）

③、授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：1名 まあまあできた：3名 ふつう：1名）

④、学校で取り上げられる漢文教材の理解を深めることができましたか。（かなりできた：1名 まあまあできた：4名 ふつう：0名）

⑤、漢文訓読に慣れましたか。

（大変慣れた：1名 まあまあ慣れた：4名 ふつう：0名）

⑥、漢文に対する興味は深まりましたか。（深まった：4名 少し深まった：1名）

⑦、漢文教材を読解する上で、あなたが考えたこと・思ったことを自由に書いてください。

・調べる参考書が意外に多くあることに気づいた。色々な参考書を調べるのが大事だと思った。

・それぞれの教材に対応する調べ方を覚えておく必要があると思った。

・現代語訳だけを調べるのではなく、作品の背景を可能な限り調べることが大事だと思った。

・これまで考えていた以上に作品を読解する必要があると思った。

・思っていた以上に調べることがあり、実際に現場に出た場合は大変だと思った。

・一つ一つの語句に歴史の重みがあることが分かった。

⑧、授業を通して、漢文教材を生徒に指導することについて、あなたの思うこと（考えたこと）を教えてください。

・これまで受けてきた漢文の授業では、書き下し文にする作業や現代語訳する作業が中心だったが、漢文の授業でも深く考えさせたりすることが出来ると思った。

・指導する側がしっかり作品を読解しておく必要があると思った。

・生徒に考えさせるためには、とにかく学習のねらいをしっかりとさせておくことが重要だと思った。

・難しいと思った。

・もっと体系的に作品を調べる方法が分かれば、教材分析がしやすいと思った。

・漢文は訓読の指導をすればよいかと思っていたが、そうではないことが分かった。

⑨、授業に対するあなたの意見・感想を自由に書いてください。

- ・もっとたくさん作品を読みたかった。
- ・漢文の作品読解や授業の組み立てなど、新しい発見が多く楽しかった。
- ・自分が漢文について無知であることが分かった。これを機会に普段から漢文の作品読解に取り組んでいきたい。
- ・実習で授業が不規則だったのが難点です。
- ・教員採用試験が迫っているので演習が大変だった。
- ・教員採用試験の問題について、色々アドバイスをしてくださり大変感謝しています。
- ・教員採用試験の対策を教えてください、大変良かった。

3 アンケート結果について

①～⑤の結果より、教員の対応や授業の進行については、あまり不満は見られなかったと言える。質問事項についての回答には、当然ながらマイナスの選択肢も用意してあったことを明記しておく。

⑦と⑧の意見・感想を見ると、目的②で掲げたことがほぼ達成できたと思われる。漢文の作品を読むことがいかに大変であるか、そしてそれを伝えることがいかに難しいかを実感してもらうためにこの授業はあったといえる。学生の意見と感想を見れば、そのことを実感したことが分かる。

⑨の感想を見ると、やはり開講時期が4年生の前期であることが深く影響していると思われる。漢文の作品読解・授業の組み立てに興味を持つ一方で、教員採用試験に関する感想が非常に多い。実際には授業外で教員採用試験に関することについての質問を受けていたのであるが、そのことに言及した学生が多い。7月に教員採用試験があるため頭の中はそのことでいっぱいだったようである。教員採用試験のためだけの授業を行うことは出来ないが、授業外になるべく対策の時間を設けることは必要だといえよう。

まとめ

2年次に漢文教材に関する概説を行い、以降、漢詩・論語を授業で取り扱い、本授業で最後の漢文授業になる。それまで扱った内容をふまえて、

どのように漢文授業を構築していくか、自分の中で明確にしておく必要がある。漢文については、当然のことながら現場に出てから教材研究、指導案作製に苦勞することになる。その際に作品研究がどれほど大変か、生徒のことを考えて指導案を作製することがどれほど難しいか知っておく必要がある。本授業ではその一端を伝えることはできたと思いたい。

開講時期が採用試験の前であることから、受講学生は少ない。一年後に教壇に立って漢文を教えなければいけない学生に対しては、これまで通りの目標であるべきだと考えるが、目の前に迫った教員採用試験のことを考えれば、それに応じた内容・対策を授業で扱いたい気持ちもある。両立することは出来ないが、授業外も含めて学生の意に適ったことを指導していきたいと考えている。